

平成21年度の学校自己評価及び学校関係者評価に基づく課題及び今後の方針等
【学部関係】

| 学部 | 評価 | 課題 |
|-----|---|--|
| 小学部 | <ul style="list-style-type: none"> ・体力の向上と安全な環境作り ・校内外での体験的学習 ・学習活動や日常生活の中で意思を伝えようとする意欲の育成 ・教育内容や教材等の工夫による学習意欲を育てる指導 ・個別支援ファイルの活用 ・小1年生の4者面談の実施 ・新しい取組が増えている | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が相談しやすい雰囲気作り ・集団活動と個別指導のバランスへの配慮 ・文面だけの評価は困難 <p>※保護者代表が評価委員会に参加しているのはよい。</p> |
| | <p>【今後の方針等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育課程の全体的な見直し（各教科、領域教科を合わせた指導等に関する研修） ○ストレスのない職場であり、かつ適度な緊張感のある雰囲気作り ○合同学習や係分担の工夫による円滑な学部運営 | |



平成22年度 1学期の反省と課題

| |
|--|
| <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○連絡帳、電話、メール、送迎時、学級懇談、個別面談等を活用した家庭と連携による健康管理の徹底 ○地域支援部と協力した保護者の家庭内の悩み、不安の解消あるいは軽減 ○個別のねらいの設定と支援の仕方や教材の具体的な工夫 ○児童が自ら考え活動に取り組めるための、グループ学習における教師の支援体制や支援方法の工夫 ○専門家（大学准教授等）との連携による児童の実態に沿った基礎的学習能力の育成 ○校長、教頭等による各教科、領域教科を合わせた指導等に関する研修の実施 ○歩こう会、遠足、買い物学習等における交通ルールや危険な場所等、安全面についての実際場面での学習 <p>※ワイワイTV 学習の様子取材放映（9月）</p> |
|--|

| |
|---|
| <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学部の教育内容や学部行事の見直し ●教材教具の有効利用の在り方（既存の教材教具の活用、新しい教材教具の作成） ●職員全体で児童を見守るという意識の向上 ●情報交換会（しゃべり場）のさらなる活用（情報交換と学習効果） ●週計画を立てるための話し合いの時間確保 |
|---|

| 学部 | 評価 | 課題 |
|-----|---|---|
| 中学部 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習面、特性に応じたグループ学習の推進 ・リサイクル活動等地域との交流 ・プレジョブ体験 ・作業学習や職場体験など将来の社会参加への対応 ・合同音楽など特性に応じた新しい取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・プレジョブ等に関する一層の情報発信 ・保護者と連携した企業開拓 ・職員間の指導の一貫性の検証 ・家庭との連携による日常生活、挨拶、性教育の指導 ・時間のメリハリ、挨拶、返事等の基本的習慣の意識付け ・思春期のもやもや等を発散できる場の提供 |
| | <p>【今後の方針等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○通常学級における教科指導、重複学級における自立活動、全学級における生活単元学習の効果的なグループ学習 ○職場施設の体験活動（現場実習（仮））の試行に関する整理 ○あいさつや返事、言葉遣いなどの指導 | |



平成22年度 1学期の反省と課題

| |
|--|
| <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数学に加え、国語におけるグループ学習の導入（能力差のあまりない生徒同士のグループ編成）と一人一人に対する細やかな指導 ○重複学級合同学習における人とのふれあいの機会設定による他者意識の芽生え ○日常生活全般における挨拶、返事の常時指導 ○進路学習の早期からの計画的実施 ○職場施設見学及び職場施設体験学習の実施（新） ○文化的な体験学習やリサイクル活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・生け花体験（総合的な学習の時間）→夕刊ディリー記事掲載 ・リサイクル活動（6/2～5）→ワイワイTV取材放映、夕刊ディリー記事掲載 |
|--|

| |
|--|
| <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●数学、国語のグループ学習実施にあたっての、担任と教科担との情報交換の徹底 ●挨拶や言葉遣いの指導の徹底 ●生徒の実態に応じた進路学習の在り方と「働くこと」についての意識づけ <ul style="list-style-type: none"> ・長期的、継続的な学習形態の工夫 ●リサイクル活動の時期の再考をはじめとする教育課程の行事見直し |
|--|

| 学部 | 評価 | 課題 |
|-----|---|---|
| 高等部 | <ul style="list-style-type: none"> 軽度と重度の生徒の交流が配慮された学習面での効果的なグループニング 日常的な指導による言葉遣いや挨拶などの定着 現場実習を重ねることによる力のある生徒の自己課題認識の高まり 地域社会との積極的なコミュニケーション 社会参加を見据えた現場実習等への積極的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> 個々の発達や特性の違いによる問題点や課題をしっかりと押さえた自立に向けた指導 職員間の連携の強化と指導の一貫性 人間関係等ストレスへの対応 学校と家庭が連携した体力不足への指導 軽度の生徒を社会に出していく取組（学力向上、職業訓練等） 児童生徒の変化や指導効果等のより具体的な提示 |
| | <p>【今後の方針等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の多様化に対応できる、柔軟性のある教育課程の編成と実施 ○進路指導部と連携した卒業後の進路開拓ならびに職業教育の検討、作業学習の改革と各作業班の連携による職業能力の開発 ○生徒指導（規則的な生活習慣、好ましいあいさつや服装、態度など習慣化と体力の向上）の強化と良好なコミュニケーション・対人関係の構築 | |



平成22年度 1学期の反省と課題

【取組内容】

- 作業学習の時間数増加と新しい作業内容（メンテナンス）の導入
- 作業学習内容の充実
 - ・目標の設定、作業内容の明確化
- 現場実習と校内実習の充実
 - ・1学期：1年生～校内実習、2・3年生～現場実習（生徒によっては校内実習）
- 生徒が自分の進路を見つめる上で貴重な経験ができる現場実習先の開拓
- 体力向上のための活動の実施
- 生徒の自主的な活動を引き出す生徒会活動の充実
 - ・全校集会、美化活動、あいさつ週間等の実施
- 社会生活の習慣及び身辺処理能力の一層の定着
 - ・指示、支援のあり方の工夫
- 卒業後に必要と思われる内容等を工夫した総合的な学習の時間

【課題】

- 時間厳守や服装など、基本的な社会生活に必要な事項の徹底
- 望ましい職業観、勤労観を育成するための保護者への啓発や協力の依頼
- 通常学級生徒、重複学級生徒の作業内容の検討（個に応じた対応）
- 各教科、教科領域を合わせた指導等の時間確保と作業学習の時間とのバランス
- 集中力、持続力と結びつく体力向上の工夫（時間、時間設定、内容等）
- 学年会の時間の確保

平成22年度の学校自己評価及び学校関係者評価に基づく課題及び今後の方針等
【経営ビジョン関係】

1. 専門的指導力の向上

＜平成21年度学校関係者評価＞

| 目標 | 評価 | 課題 |
|---|---|--|
| ①教育課程等を見直すための基本資料の作成 ②新学習指導要領への対応の準備 ③職員間のコンサルテーション機能の充実 ④指導困難な事例の解決 ⑤保護者による授業評価の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・全校児童生徒を対象とした実態調査の実施により、小・中・高等部全体を見通した学校としての指導上の問題や課題の明確化 ・PT、OT、STの活用の在り方やケース会議の充実 ・高等部入学予定者の早期把握と支援体制の充実 ・児童生徒について話し合う時間や場の設定（小学部モデル） ・実態調査結果の保護者説明会 ・保護者相談会の実施 ・保護者への学校経営報告会 | <ul style="list-style-type: none"> ・実態調査による課題の明確化は大切。保護者との共通理解による指導や教育内容への一層の反映 ・小学部のモデル的取り組みはよい。共通理解と指導の一貫性の推進 ・転入学時の情報収集とコーディネーターとの連携による指導の充実 ・教育内容や学校経営に関する説明は保護者の意識改革につながる。次年度への引継と保護者がいつでも相談できる体制作り |
| | <p>【今後の方針等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○指導困難な事例の解決につながる研修体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・PT、OT、STモデル事業と連動した研修内容 ・大学等と連携した実践的研修 ○アンケート結果より作成した基礎資料の活用 ○昨年度からの取り組みの充実発展 | |



【平成22年度 取組と課題】

学校関係者評価

4

【取組内容】

- 大学の専門家との連携による事例研究の実施（年4回：大分大学）
- PT、OT、STとの連携による事例研究の実施（県のモデル事業）
- 「個別の指導計画」の指導内容と評価を通知票と連動し、記載転記の効率化を図るためのデータベースシステムの構築
- コンサルテーション機能の充実のための小学部モデルの推進
- 学校の教育内容や卒業後の状況等に関する保護者への説明会の実施

【参考】専門性向上研修

※特徴：連続性・継続性のある研修形態

| 実施日 | 講師名 | 研修内容 |
|--------|--------------------------|---|
| 7月30日 | ジョブコーチ 疋田 文彦 甲斐 勇侍 | 卒業後を見据えた指導はどうあれば良いか ～ジョブコーチの視点から～ |
| 8月27日 | 愛泉会日南病院医師 澤田 一美 | 本県における医療的ケアの現状と医療的ケアの意義 |
| 10月30日 | 大分大学 准教授 衛藤 裕司 | 行動面に困難を抱える児童生徒へのアプローチ ～指導者側の具体的な「関わり方」に焦点を当てて～ |

2. 進路指導体制の充実

| 目標 | 評価 | 課題 |
|---|--|--|
| ①作業内容や教育課程の見直し ②生徒のニーズへの教育内容の反映 ③就労アドバイザー等との連携による職場開拓等支援体制の充実 ④先進校視察等による新たな進路体制の整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを実施し、実習先の意見や要望等を学習内容へ反映 ・高等部の課題研究として、新しい職業教育の在り方など教育課程全体を検討 ・就労アドバイザー等を積極的に活用した職員研修 ・県の就労バックアップ事業を活用した先進校視察や専門家を招いた研修 | <ul style="list-style-type: none"> ・研修会における企業の担当者参加 ・発達の違いや個性にあった進路の確保 |
| <p>【今後の方針等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進路指導体制の基本的枠組みの確立と高等部教育課程の見直し ○あいさつや返事、言葉遣い、体力作りなど企業側から得た意見に基づく指導体制の充実 ○作業学習や進路指導に関する保護者への理解啓発 ○企業や施設、行政機関等との連携の強化 ○昨年度からの取り組みの充実発展 | | |



【平成22年度 取組と課題】

学校関係者評価

4

【取組内容】

- 進路指導主事の専任化
- 進路指導主事、就職指導支援相談員、就労アドバイザーとの協同による職場開拓とフォローアップの実施
- ジョブコーチとの連携による進路指導研修会の実施（年5回）
- 高等部における作業内容や指導内容の見直しと進路指導体制の構築
 - ・メンテナンス作業の導入
- 中学部への職場体験や現場実習の導入
 - ・6 / 23 職場・福祉作業所見学
 - ・9 / 17 校内・校外職場体験学習

【課題】

- 卒業後の視点からみた指導の一貫性に関する学部間意見交換会の実施

3. 教育環境及び職場環境の整備

| 目標 | 評価 | 課題 |
|---|--|--|
| ①「安全で安心な教育環境」の整備 ②幅広い障がい状況に対応できる教育環境作り ③ストレスの少ない職場環境の整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・東白杵郡公立生徒指導主事会への参加と連携 ・不審者対策、避難訓練等の充実 ・職員等への名札の導入 ・校内安全チェック体制の強化 ・問題行動、不登校への対応の強化 ・諸表簿の整理等による事務処理の効率化 ・専門医による研修会の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・(学校は安全であって当たり前。) 継続した自主点検の徹底 ・職員のゆとりの時間の確保や心身の健康増進に関する継続した職場全体での取り組み ・事務処理の一層の効率化 ・報告、連絡、相談の徹底 |
| | <p>【今後の方針等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地震や津波等自然災害等への対応の強化 ○事務処理の効率化等によるゆとりの創出 ○資質や能力の向上等に関する支援とストレス軽減に関する検討 ○新たな生徒指導上の課題(怠学、喫煙、外泊等)に対する指導体制作り ○昨年度からの取り組みの充実発展 | |



【平成22年度 取組と課題】

学校関係者評価

4

【取組内容】

- 安全に関するチェック体制の強化及び職員の意識の向上
 - ・危機管理意識の向上
- 不審者対応、避難訓練等の内容の見直し及び強化
 - ・実地的な対応の検討 マニュアル等の見直し
- 美化週間やあいさつ強化週間等の設定と児童生徒への指導の強化
 - ・美化週間 : 5/12~16、11/17~21
 - ・あいさつ強化週間: 生徒会計画による
- 諸表簿の記載や管理等に関する更なる効率化とゆとりの創出
- 指導困難事例への研修支援等による指導上のストレスの軽減

4. 特別支援教育のセンター校としての機能の充実

| 目標 | 評価 | 課題 |
|--|---|--|
| ①地域社会のニーズへの対応 ②巡回相談等の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達検査結果報告書の様式の改訂（分かりやすく伝えるための工夫） ・ 発達検査の活用等に関する職員研修の実施 ・ 県北地区統一の「教育相談利用手引き」の作成 ・ 幼稚園、小中学校への「個別の指導計画」の書式の配布 ・ | <ul style="list-style-type: none"> ・ チーフコーディネータの養成、教材データベースの作成、図書データベースの作成などこれから求められるセンターとしての機能の充実 ・ 小中学校等における特別支援教育の充実発展の支援 |
| <p>【今後の方針等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育事務所等と連携した小中学校の支援体制 ○ コーディネーター及びチーフコーディネータを養成できる体制作り ○ 校内支援体制の充実 ○ 検査器具、各種資料等の充実 | | |



【平成22年度 取組と課題】

| | |
|---------|---|
| 学校関係者評価 | 4 |
|---------|---|

【取組内容】 地域のニーズに柔軟に対応した各種支援サービスの推進

- 教育事務所と連携したコーディネーター研修会の推進

- 幼稚園や私立学校を含めた連携支援体制の推進

- 変化するニーズへの対応策の検討

- 図書や教材教具、検査器具、研修資料等の充実

【課題】

- コーディネーター及びチーフコーディネーターによる支援だけでなく、センター校としてのサービスの推進

5. 人材育成に関する行動計画

| 目標 | 評価 | 課題 |
|--|---|---|
| ①専門性の向上を支援できるような課題解決型の研修会の実施 ②ライフステージ毎に段階的にリーダーシップを発揮できるような組織運営 | <ul style="list-style-type: none"> ・発達支援センターとの連携による事例研究会及び報告会の実施 ・個別の指導計画活用の推進 ・主任主事の役割に関する意識改革と部員の役割分担の明確化 ・運営委員会の位置づけの明確化 | <ul style="list-style-type: none"> ・専門性と指導力の相関に関する意識改革 ・10年後を見据えた人材育成の在り方 ・教師に必要な専門性の整理 ・経験、能力、年齢等に応じた役割分担 ・課題解決に対する自主性、主体性の醸成 |
| | <p>【今後の方針等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校としての教育力の総和を高められるような専門性向上の在り方 ○小さな主体的、自主的経験が積み重ねられるような役割分担 ○若手の育成 ○何を持って人材が育成されているといえるかの検討 | |

【平成22年度 取組と課題】



学校関係者評価

4

【取組内容】

- 専門家と連携した各種事例研究会の推進及び実施
- 指導に関する新しい取組の推奨
- 各主任とのビジョン実現のための協議（自主性と積極性の醸成）
- 県の2つの大会事務局としての活動
 - ・宮崎県特別支援教育研究連合知的障害教育部会研究大会（7/28）
 - ・宮崎県特別支援教育研究連合研究大会（県北ブロック大会）（8/4）
- 就学指導委員、市の各種委員等の委嘱受諾

【課題】

- 段階的にリーダーシップを経験できるような業務内容の階層化